

平成 29 年度 第 4 回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水） 15:00～17:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 206 会議室
3. 出席者：
（委員）永井議長、喜連川委員、竹中委員、成宮委員、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、泉統括役、
松尾経営企画部長、岡安総務部長、前田経理部長、中村研究公正・
法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、高見産学連携部
長、野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、河野臨床研究・治
験基盤事業部長／創薬戦略部長、林革新基盤創成事業部長、大場経
営企画部次長
4. 議事
 1. 日本医療研究開発機構の取組と課題について
 2. データマネジメントプランについて
 3. その他
5. 議事の概要
議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、議事に入った。

議事 1 について、事務局より資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 を基に説明を行っ
た。
委員からは、以下のようなコメントがあった。
 - いろいろ活発に活動されていて大変結構と思う。
 - 研究班に入ってもデータを登録しない先生はいる。そういった研究者には
お金をつけないという指導が効くと思う。
 - データ提供をしないケースは、10 段階評価をしっかりとやって、点数に応
じた減額もあるのではないか。
 - ステージゲートについては、ターゲットバリデーションの考え方は重要と
考える。
 - 日本の研究は世界でのプレゼンスが落ち、その一つの原因は臨床サンプル

の分析が遅れていることで、外国では患者のシングルセルベースで RNA シーケンスで解析している。そのためのインフラストラクチャーが大事ではないか。

- CiCLE 事業の rTR (リバーズ・トランスレーショナル・リサーチ) の基盤形成は大事。橋渡し事業も、医師主導治験を行うだけでなく、ビジネスにつなげる視点を考えることも必要ではないか。
- ヒト試料の活用は、企業の要望は多い。GAPFREE の取組は人気がある。専門領域の試料は NC にないか。リストを見て、がんや循環器の研究に使えないのか。
- NC のバイオバンクで臨床データが付いたものや病理組織を企業に実費を取って提供するという議論がある。治療が効いたか効かなかったかで、シーズが早く見付かる。rTR は今後の鍵ではないか。
- ステージゲートは、PS・PO が同じ土俵で確認でき、大変いい流れになっていると思う。

議事 2 について、事務局より資料 2 を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 早急にデータをオープンするというのではなく、守るべきは守る中でどこまで出せるか、しっかり考える必要があるのではないか。

議事 3 について、事務局より資料 3 を基に説明を行った。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。